

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成20年1月24日(2008.1.24)

【公開番号】特開2002-182413(P2002-182413A)

【公開日】平成14年6月26日(2002.6.26)

【出願番号】特願2000-381335(P2000-381335)

【国際特許分類】

G 03 G	5/10	(2006.01)
B 24 B	21/00	(2006.01)
B 24 B	29/00	(2006.01)
B 24 C	1/08	(2006.01)
B 24 C	3/32	(2006.01)

【F I】

G 03 G	5/10	B
B 24 B	21/00	D
B 24 B	29/00	F
B 24 C	1/08	
B 24 C	3/32	C

【手続補正書】

【提出日】平成19年12月5日(2007.12.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】無切削アルミニウム管の表面に砥粒吹付け加工を行った後、前記アルミニウム管の表面を、30%圧縮応力が15~1000g/cm²、気孔径が10~500μmの多孔性軟質体からなるこすり材を押当ててこすることを特徴とする感光ドラム基体用無切削アルミニウム管の表面処理方法。

【請求項2】前記多孔質軟質体は、PVA系樹脂、ポリエチレン系樹脂、ポリエーテル系樹脂、酢酸ビニール系樹脂、ポリウレタン系樹脂のうちのいずれかによって形成されている請求項1に記載の感光ドラム基体用無切削アルミニウム管の表面処理方法。

【請求項3】前記無切削アルミニウム管とこすり材との接触部に純水または界面活性剤を吹き付ける請求項1または2に記載の感光ドラム基体用無切削アルミニウム管の表面処理方法。

【請求項4】前記こすり材は円筒形であり、前記無切削アルミニウム管にこすり材(1)を押当ててこれらを回転させる請求項1~3のいずれかに記載の感光ドラム基体用無切削アルミニウム管の表面処理方法。

【請求項5】前記こすり材はシート状であり、こすり材をロール状に巻き取り、一定速度で送りながら無切削アルミニウム管に接触させる請求項1~3のいずれかに記載の感光ドラム基体用無切削アルミニウム管の表面処理方法。